

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	84%	16%	園庭・ホール各クラス等で活動空間を確保しています。
	2 職員の配置数は適切であるか	84%	16%	配置基準を上回る人員配置を設置しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100%		事業所内は全て、段差がない構造になっています。部屋の扉の横にどんな部屋か視覚にわかりやすく絵で表示している。活動やその日の流れが分かりやすいようにタイムスケジュールや絵カードを貼り、見通しが持てるよう配慮しています。遊具の周辺にはマットを敷く、角や鉄の棒にはガードをする等安全面にも配慮しけが防止に努めています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%		園内外の清掃を活動前、活動後に毎日実施すると共に、アルコール消毒し感染対策を実施している。また、玩具に関してはアルコールで拭いています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	80%	20%	事例検討等を行い計画、実行は行っているが、評価・対策まで確立していない場合がある為、標準化されたシステムを構築しPDCAサイクルを用いて業務改善を行っていきたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%		評価表のアンケートを行い意向を聞いている。また、日頃のコミュニケーションの中でも頂いた意見を参考に業務改善に取り組んでいる。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%		ホームページで公開しています。また、事業所内にも玄関に掲示しており見られるようになっております。今後も公開していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	100%		苦情解決についての第三者委員を設置しています。見学の方にもい感想を頂き業務改善意努めている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%		法人内の新人研修、キャリアパス研修に参加したり、事業所内部研修を行っています。また、外部のセミナーや研修への参加も積極的に行っています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%		日々の支援の中での振り返りや話し合いの中から課題や目標を設定しています。保護者へは送迎時にお伝えしたり、電話相談や面談を行うなど行い、アセスメントを行って保護者の困りや悩みの共有、ニーズの把握を行い、どのような支援が必要かを職員間で話し合うなどして、計画を作成しています。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%		他機関が実施した発達検査をアセスメントツールとして活用すると共に、利用調査票や相談支援専門員からの情報提供等を用い状況を把握しています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%		「発達・才能支援」、「対人関係・心のケア支援」、「地域・家族支援」の項目を設け、子ども一人ひとりにあった、必要な支援目標と支援内容を設定しています。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%		個別支援計画に沿った目標のもと、個々の発達段階に応じた支援を行っています。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	80%	20%	活動ディレクターを中心に活動内容を考え、職員間で検討し立案しています。活動が毎年重複しないように新たな活動に取り組むようにしています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%		季節の活動や製作、粘土遊び、音楽遊びなど粗大運動や微細運動を取り入れてます。職員だけでなくお子さんも含めてみんなで話し合って活動内容を決めています。子どもたちの状況や必要に応じて一定期間固定する場合があります。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	100%		個々の発達段階に応じて個別活動と集団活動に取り組んでいます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	80%	20%	支援前(朝礼時等)にミーティングを行い、活動内容、個々の対応での留意点や個別対応の必要性のある児童へは担当を決める等、役割分担を行っています。引継ぎが上手く行かない場合も見られた為、引継ぎシステムを構築して人為的なミスがないように努めていきたい。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	80%	20%	活動終了後ミーティングを行い、支援の振り返りと新たな支援方針の検討を行っています。その日にいなかった職員にも伝わるよう業務日誌に記載し、朝礼時に伝達するなどして情報共有をしっかりと行っています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	80%	20%	正しく記録をとれているか、記録確認者を設定し記録の抜けや内容の精査を行っている。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%		相談支援専門員と連携を取りながら半年に1回更新モニタリング会議を行い計画を見直しを行っていて、必要に応じて細かい計画の変更を行うようにしています。
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	80%	20%	管理者・児童発達支援管理責任者や療育現場でその子ども・保護者との関係ができている職員が会議に参加して情報交換を密に行い、会議の内容を全職員に周知している。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	100%		地域の保健師からの相談にて利用に繋がったお子さんや、保育園・幼稚園・こども園を並行利用している園児の保育士等と送迎時の情報交換や保育所等訪問支援を通して情報共有、助言等で連携した支援を行っています。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			対象児童なし
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			対象児童なし
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%		併行利用している児童にたいして、送迎時に情報交換を行ったり、保育所等訪問支援を行いながら、事業所や園での支援の内容や関わり方、利用児の特性に応じた配慮などについて相互理解を図っています。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%		小学校とは就学前に支援会議を行うなど互いの情報交換や支援での配慮点などの共有を行っています。保育所等訪問支援を通して保育園幼稚園小学校との情報共有を行いながら、就学する小学校への進学がスムーズに行えるよう連携を行っています。特別支援学校とは入学前に支援内容等の情報提供書を作成送付し、情報共有を行っています。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	80%	20%	他の児童発達支援センターの研修を実施し連携を行っている。また発達障がい者支援センターECOALや地域の保健所等と連携を図り、助言を受けたり研修や講演会に参加しています。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	66%	33%	認定こども園の夏祭りに参加し交流の機会を提供している。今後はさらに参加する頻度を増やし交流の機会を確保していきたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	50%	50%	自立支援協議会の会議には参加していませんが、担当者会議等で地域の課題としてあがった意見を自立支援協議会に参加している方に伝えて意見を吸い上げてもらっています。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%		送迎時や電話連絡により日頃の子どもの様子を保護者の方に伝えていきます。また、保護者の方のニーズを踏まえて、支援計画を作成しています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	40%	60%	ペアレント・トレーニングに関しては支援者を育成し大分なごみ園でも実施していけるように努めていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%		利用開始時に利用契約書や重要事項説明書の説明を通して丁寧な説明を行っています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%		発達支援、家族支援、地域支援等の項目別に支援内容を作成し、日頃の様子や成長したこと、どのような意図で支援しているかということを知りやすく説明し、保護者から支援計画の同意を得ています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%		随時、子育て等の悩みや相談に応じ、状況に応じて支援会議を行ったり面談を設ける等行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	66%	33%	行事の立案・計画は行っているが、事業所内会議で新型コロナ、季節性インフルエンザ感染予防の観点から保護者の参加は中止しています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%		保護者の方々からの相談は電話でも来所でも対応しており、できる限り迅速に対応しております。また、苦情解決担当者、責任者を設け、掲示をしています。また重要事項説明書でも記載し、第三者委員についても記載しています。もし苦情等があった場合は迅速に対応していくよう努めます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%		定期的に大分なごみ園だよりを発行しています。また、アプリにて発信もしております。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%		毎日の朝礼で倫理綱領を全職員で読んでいます。その中に守秘義務の遵守があり、意識の徹底ができるよう心掛けています。個人情報がある文書に関してはカギのかかる棚に収納しています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%		目で見てわかるよう、文書や写真、タイムスケジュールなどを掲示し、情報伝達しやすいよう配慮しています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	20%	80%	例年、お祭りを行って地域の方に呼びかけていたが、新型コロナ感染予防の観点から実施していません。地域社会を構成する一機関として交流を図って行きたいと考えています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	100%		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを作成しています。保護者会の際に伝えたり、利用開始時の契約の時に伝えてあります。発生を想定した訓練は、職員会議で発生想定してどのような動きをするべきかを話し合い、実際に訓練しています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%		定期的に行っています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	100%		利用前(見学時)に利用調査票に記入いただき、子どもの状況を把握しています。また子どもの状況が変化した時や服薬が変更したときは連絡をいただいております。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	80%	20%	給食を行っておらず、保護者がお弁当を作ったものを持ってきているので、アセスメントの際に食物アレルギーの把握のみを行っている。調理活動やおやつを提供する場合などで、食物アレルギーに対する配慮がある場合は、医師の指示書を保護者にいただいたり、保護者にもしっかり確認して対応していきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%		ヒヤリハットの事例が起こった際には、ヒヤリハット報告書を作成・保管し、職員間で共有できるようにしています。事故報告書も作成しており振り返りを行っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%		法人内の虐待防止委員会へ職員が所属し、虐待の防止を徹底しています。外部の虐待防止に関する研修にも進んで参加している。虐待防止につながる支援の人員配置やスーパーバイズなどにも手厚く配慮しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100%		原則「身体拘束は行わない」という方針のもと、職員の人員配置や専門性の向上に努めています。しかしながら、安全上等やむを得ない状況になった際は、行動の制止することがあることを保護者の方に説明させていただき、児童発達支援計画に記載し、署名いただいております。